

糖尿病黄斑症に対するトリアムシノロン硝子体内注入

1) 糖尿病黄斑症について

眼の構造はカメラと似ています。外の様子が角膜、水晶体を通して目の奥の網膜（いわばカメラのフィルム）に写り、そこから脳に信号が送られます。黄斑部は網膜の中心部にあって、網膜の中で最も重要な場所です。糖尿病黄斑症は、糖尿病によって黄斑部がむくんで（浮腫）しまうことによる疾患で、「視力の低下」、「ゆがんで見える」、「視野の中心が暗く見える」などの症状があらわれます。

2) トリアムシノロンについて

トリアムシノロン（マキュエイド）は副腎皮質ステロイドの一種で、眼内（硝子体内）に注入することによって糖尿病黄斑症を改善させます。

3) 注射間隔

1回の注射で約2ヵ月間効果が持続します。その後は薬剤の効果を見ながら、注射を追加するかどうか検討します。詳細については担当医から説明させていただきます。

4) 実際の注射について

A) 目を清潔にするため、注射の3日前から抗生物質の点眼を開始します

B) 方法：麻酔薬を点眼して麻酔します。まず目の周囲と、目の表面を消毒します。続いて30ゲージの注射針を用いて、マキュエイドを硝子体内に注入します。注射は30秒程度で終了します。

6) 合併症

術中合併症について

麻酔薬、および感染予防に用いる抗生剤は化学物質であるため、ごく稀にショックを起こすことがあります。手術前に薬剤テストを行いますが、それでもショックを予見できないこともあり、その場合には最善の処置をとります。

術後合併症について

A) 術後はマキュエイドによって硝子体内が白濁するため、かすんで見えたり、濁りが目の前に見えますが、注射後1－2週間で自然に治ります。

B) 細菌性眼内炎

硝子体注射の傷口から細菌が入り細菌性眼内炎を起こす事が報告されています。極めて稀ですが、一旦発症すると重篤な視力障害を引き起こす可能性があります。そこで術

前・術後の抗生剤点眼使用や生活の注意点などを、よく守ってください。注射後数日以内に、眼痛・多量のメヤニ・急激な視力低下があった場合には、細菌性眼内炎の可能性があるので、ご連絡ください。

C) マキュエイド注入により、眼圧が上昇することがあります。点眼薬や内服薬による治療を行いますが、それが無効な場合は手術が必要なこともあります。

D) マキュエイド注入により、白内障が誘発されることがあります。白内障が進行した場合、手術が必要なことがあります。

E) それ以外の合併症

硝子体注射に伴う合併症として、ごく稀に、硝子体出血、網膜剥離が報告されています。